

令和6年度

海陽中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①授業規律を確保し、わかる授業の実践により学習意欲を育成する。
- ②学習習慣を定着させるとともに、効果の上がる勉強方法を身につけさせる。
(家庭学習の充実)

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教務主任 百々 佳代	委員	1学年主任	鳥澤 和佳
		2学年主任	丸岡 弘典
		3学年主任	松岡 恵美

校長

原 清二

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎・基本の知識や技能を問う問題に対しては、真面目に取り組むことができる。 ●基本事項を活用する問題や、自分で考えて表現しなければいけない課題に対しては、諦めてしまいがちである。	①授業に集中して取り組み、基礎・基本的な知識・技能を身につけている。 ②基礎・基本の知識を生かし、活用問題や応用問題にも積極的に取り組むことができる。	①知識・技能の定着の度合いを定期的に確認する(小テスト等)。定着が不十分な生徒については、個別に指導していく。 ②家庭学習を毎日の生活の中に定着させ、個人の学力に応じた課題を設定する。応用問題にも適宜取り組ませる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○簡単に正解を求めることができる問題については、意欲的に取り組むことができる。 ●自分の考えをわかりやすく伝えたり、自分で判断して表現・説明したりすることに課題がある。	①自分の考えをわかりやすく説明したり文章表現することができる。 ②自分なりの考えをもち、他者と意見交換をしたり、コミュニケーションをしたりする中で、学びを深めることができる。	①自分の考えを説明したり、他者と意見交換したりする場を授業の中で設定する。 ②考えを説明するために必要な語彙を増やす。読書週間を設定し、多くの言葉や文章に触れることができる機会を増やす。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○定期テスト前などの与えられた課題については、真面目に取り組むことができる生徒が多い。 ●自ら課題を見つけて積極的に取り組む姿勢や将来への展望をもって学習に取り組む姿勢に課題がある。	①目標や課題意識を持って意欲的に授業に取り組むことができる。 ②将来への展望を持ち、自分なりの目標を設定して学習に取り組むことができる。	①学習計画を立てさせ、個別にアドバイスをしていく。 ②「問い」が生まれる授業を展開するとともに総合的な学習の時間の中でも、外部機関との連携を通して、キャリア教育の充実を図り、将来への展望を持たせる。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

